

原発発電能力3倍

50年までに日本含む有志国宣言

【トバイー共同】米国や日本など約20の有志国が、世界の原発の発電能力を2050年までに3倍に増やすとの宣言をまとめたことが分かった。気候変動対策の一環としており、国連気

候変動枠組み条約第28回締約国会議（COP28）首脳級会合に合わせて打ち出した。環境団体は「誤った対策だ」と批判している。

宣言は、気候変動対策に

「原子力は重要な役割を果たす」と明記。発電能力を20年と比べ50年までに3倍にするため、参加国が協力するとした。

原発は発電時に温室効果ガスを排出しないが、事故リスクなど課題も多い。宣言を受け、国内外の環境団体が連名でコメントを発表。気候危機に対処するためには「一刻も早い化石燃料の廃止が必要で、原発をはじめとする誤った気候変動対策は真の対策を遅らせる」と訴えた。

日本政府は、原発の60年超運転を可能にするなど原発利用を推進している。現行計画で30年度の電源構成は20〜22%を見込む。